竹内芳太郎（たけうち よしたろう）

穏やかな人柄に秘めた強い信念
－農村改善に尽くした建築家－

竹内芳太郎（1897 ～ 1987）
出典：竹内芳太郎『年輪の記』

■生い立ち

竹内芳太郎は、1897(明治30)年、半田市亀崎相生町で機械工場を経営する家庭に生まれた。同工場では東大寺大仏殿修理に使われた製材器具も製作した。父は三菱UFJ銀行となる稲橋銀行のちの東海銀行の重役も務めた。

竹内は演劇好きで坪内逍遥の指導を受け、初代水谷八重子らと活動を続けた。竹内は晩年にいたるまで「八重子、八重子」と彼女を呼び捨てにして語った。また文壇とも縁があり『人生劇場』の尾崎士郎と愛知県立第二中学校に同期入学で、柔道では稽古相手であった。

愛知二中から愛知一中へ転校し卒業後、早稲田大学の建築科に学ぶ。世界文化遺産となっている白川郷を卒業研究のテーマとし、合掌造りの成立要因を狭小な耕作地と養蚕業にあると洞察した。現在ほど有名でなく、1921(大正10)年当時は徒歩での調査旅行であった。

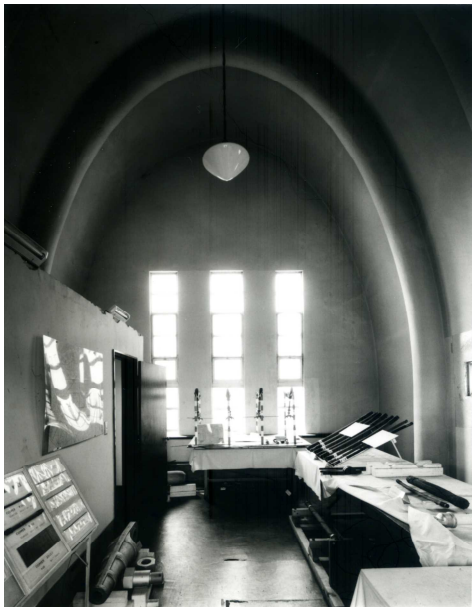
■農村改善と舞台研究

大学卒業後、東京市の公園課に勤務する。彼は早期から公園計画と植栽に関心を示す新しい建築家であった。また早大建築の佐藤功一主任教授と今和次郎助教授から民家調査の指導を受け、民俗学者の柳田国男や渋沢敬三ほかと民家研究を共にする。彼のライフワークである農村改善と舞台研究は、大学入学直後から始まっていた。

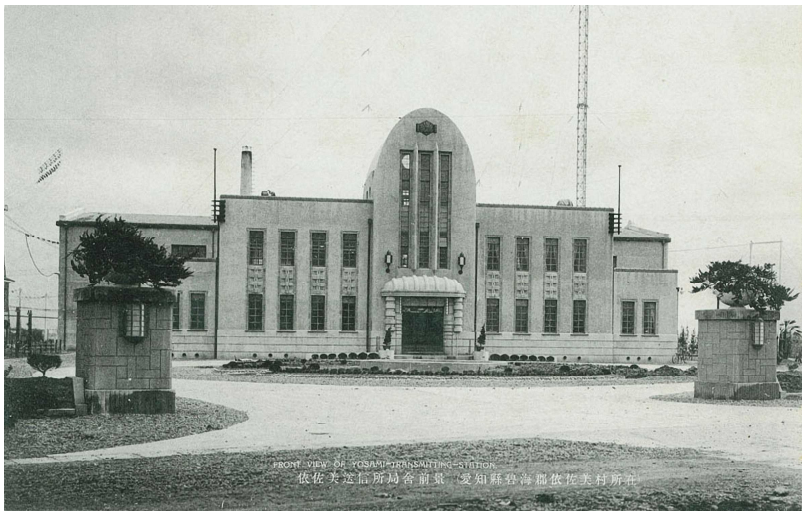
■代表作・依佐美（よさみ）送信所本館

竹内芳太郎の設計作品もあった。刈谷市の鉄塔として知られた依佐美送信所が代表作である。本館正面最上階の放物線は、竹内の活動が新しい時代であったことを示している。明治以来の様式建築の時代が去り、建築設計者の個性を表出する時代になっていたのである。

著者(水野)が直接、教えを受けた中部工業大学での竹内先生は、いたって穏やかな人柄が前面に出ていた。しかし竹内が設計教育を受け、その後、農村改善を続ける生涯は、新しい時代と彼の強い信念が背景になければなし得ない業績であった。



依佐美送信所本館の最上階の放物線
写真：水野信太郎撮影　1998



竹内芳太郎の建築作品、依佐美送信所本館　　写真葉書：個人蔵

なお、2006(平成18)年に発行された『愛知県史　別編　文化財1　建造物・史跡』などには、729ページに複数の送信機器メーカーが掲載されているが、「この機械はいずれもドイツのテレフンケン会社のものを輸入していた。(中略)建築はそれに適応した設計にする必要があるので、その仕様書をテレフンケン会社から送ってくる。」と、昭和期から竹内自身が幾度も記述している。この機会を借りて明記しておきたい。

（水野信太郎）